

鈴木ひとみ市政報告



鈴木ひとみ

ごあいさつ

春の日差し、新芽や花の色に心華やぐ季節となりました。緊急事態宣言が解除されたものの、首都圏での新型コロナウイルス感染者数は増加を続け、様々な変異株の心配もされています。私たちにできることはこれまで通り、うがい、手洗い、三密を避けるという地道な感染予防です。

令和3年度館山市一般会計当初予算として、209億5700万円が議決されました。更に新型コロナウイルス対策を主とする3億983万9千円の補正予算を加えて、212億6683万9千円とかつてない大きな予算で新年度がスタートします。

令和3年第1回定例会 一般通告質問より

コロナ禍の市民の生活への影響

新型コロナウイルス感染症は、館山市内では都会のような広がり方を見せていないものの、市民生活には少なからず影響しています。失業者数や、倒産件数を市が把握できる仕組みはありません。コロナ禍で先が見えないことにより、事業をあきらめてしまう、パートやアルバイトの収入が減っているという実情は推測できます。

中小企業融資制度は、運転資金493件、設備投資57件、合計27億8438万円の利用(2月16日現在)、社会福祉協議会を窓口とする緊急小口資金、住居確保給付金の利用は激増しています。

一方で、コロナ禍による生活保護の相談はそれほど多くないので、様々な制度の活用により、一定の生活水準が維持できていると考えられます。

適切な経済対策を行っていくためには、市民生活や



経済の実態を市が正しく把握することが必要であると考えます。

人口減少に歯止めをかけるための施策

館山市の合計特殊出生率は平成29年度1.46、30年度1.54と高い水準でありましたが、令和元年度は1.20と激減しました。コロナ禍で全国的にも出生数は落ち込む傾向にありますが、子育て支援が充実し、若い世代の転入の多い地域では、増えています。

館山市は今、都会からの移住先として注目を集めています。働き方が変化する中、現役世代の移住先として

選ばれるためには、きめ細かな子育て支援策と、豊かな自然の中での子育てや、暮らしの提案が必要だと考えます。また、上級学校へ進学した若者が、学んだことや資格を持ちかえれば、多くの地域課題が解決します。地域の中での子育て、若者の力を発揮できる地域づくりなど、大人が子どもや若者と一緒に考える場を作ることが必要です。

地球温暖化防止の取り組み

年々大きくなる風水害、気温、海水温の上昇を考えると、地球温暖化防止の取り組みは急がなければならない大きな課題です。多くの企業も賛同し、再生可能エネルギーの利用、脱化石燃料化を進めています。環境省、経産省などもグリーンリカバリーとして、補助事業を準備しています。

自然豊かな環境が館山の宝物です。一昨年の台風では大きな被害も受けました。気候非常事態宣言を表明し、この地域の環境、地球環境をともに守っていかう姿勢を見せて欲しいと思います。